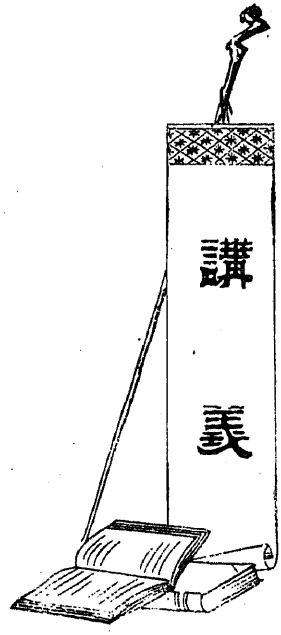
素がある其酸素が水中に混ずるから魚類が死なゝい水族館に行くと水の中で大層泡が立つてゐるあれは今云つたのと同樣に空氣を送つてゐる處だことを云ふ理だから生活の有樣が異つてたとひ陸上に居るとも又地中にあるとも水中にあつても其酸素の分量こそ異なれ何れも皆酸素があるために生命を保つことを得るのである若し酸素が無くなつたらば早晩窒息して死するに至る（つゞく）




# 兒童研究法

文學士　松本孝次郎

## 知覺作用の續き

知覺は往々誤つたものを與へることがあります。故に大人が指の運動を示す時は、子供はこれを見て誤ることがあります。例へば大人が眞正に兩手を前の方に出して子供に示しますと、子供はこれを見て少し手先の方が高く上つて居る樣に知覺する樣なものであります。故に遊嬉等で手の運動を

子供に知覺させる場合には、能く注意しなければなりません。

又知覺に於ては、往々誤つた知覺を有することが自然であります。これは即幻影(illusion)の如きものであります。例へば圖畫を見て、平面を立体であるかの如く見るのは、一の幻影であります。そうして此の幻影は皆普通に有して居ります。而して子供も亦此の幻影を有つて居ります。けれども、子供が極幼い時は言語が不十分でよく言ひ表はすことが出來ませんから、何歳頃からこの幻影を有するものであるかは確に知ることは出來ません。しかし五歳位の子供は、確にこれを有つて居るといふことは明であります。

又幻影に次いでは妄覺(Hallucination)といつて誤つた知覺を有して居ります。これは實際其處に實物がないのに、あるかの如く知覺するのであります。例へば暗い處で何物もないのに或物がある樣に知覺する如きものであります。而して、子供も亦この妄覺を有つて居ります。子供が妄覺を有つて居る場合には、其の恐るべきものでないことを能く說きさかせて、其後は再び其話をせぬ樣にすることが大切であります。

幼兒の有する傳知識を檢すること

子供が家庭から幼稚園にうつる時にあたつて家庭に在つてどんな童話を聞いて居つたかを檢することが必要であります。童話は子供の精神の發達に大なる關係があります。而して此の如きことは研究すべき必要がなります。子供の幼い時は自分で童話の書本などを讀むことが出來ませんから、其初めは大人から其の話を聞くのであります。而

して此の大人は如何なる書本を參考して居るかを撿べなければなりません。私は 山人の書いて居る昔噺の中にも教育的でない處があると思ひます。

次に子供は如何なる行を善と思ひ、又如何なる行を惡と思つて居るかを知るために、具体的に例へは、朝學校に來る前に、父母に挨拶するは善き行とか、朋友に虚言をいふは、惡しき行といふ樣に、言はしむるのであります。これ等によつて家庭の如何を知ることができます。

又子供相互に話をなさしめて、其話し方に注意することが大切であります。一体、今日、大人が子供に話をいたしますのに、大人的の言語を以てします。然し、子供に話をする時は、矢張子供的の言語でなければ、感動を與へることも少く、又理解せしむることも難し。故に如何なる話し方をなすかといふことを、學問上から調べて、これに根據をとることが必要であります。

又動、植、鑛、其他自然界に付きて、如何に知つて居るかといふことを研究することも必要であります。

總て社會が進歩し、家庭か進歩するに從つて、子供の有する觀念界が變遷し來るものであります、故に、以上述へたる方法に由つて、子供の思想界をしらべ 以て教授、感化の學問上の基礎を得なければなりません。此等の研究によつて田舍と都の有樣、家庭の職業、境遇の如何、を知ることが出來ます。かくの如き研究は獨逸では、今より五十年前、已にこの研究に着目して、今日に至つては大に進んて居ります、獨逸に次いでは米國で

之を研究いたし日本でも此頃に至つて、これ等の研究をして居りますから、漸次進歩して教育上に有益なる材料を得る樣になるでありませう

Rightcousness is a straight line, and is always the shortest distance between two points.

正義は一直線なり、而して常に二點の間の最近距離なり。

## 津崎矩子（つづき）

下村三四吉

近衛忠熙公の幼時に當りて、矩子が保育輔導の任に與りしならんとの事は、前回に述べたるが如し。忠熙公は、文化十三年、九歳にして加冠の式を擧げ、右近衛權少將に任ぜられしを始めとして官位累りに進み、文政十七年には、十七歳にして已に內大臣に上り、正二位に叙せられき。これより十年を經て、天保五年、從一位に進みぬ。されど、公は、この間、はやく十三歳の春に、父基前早世の不幸にあへり。時に、鷹司政通關白たり